



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和4年 4月26日

新たな伝統の創造へ

校長 菅原 透

美しい花達が春を謳歌しています。新たないのちが躍動する季節を迎えました。令和4年度は、児童数243名（前年度比17名減）、職員数30名でスタート。創立150周年の伝統を土台に、子どもの笑顔が輝く活動を創ってまいります。

◆学校像「元気！本気！琢磨校」

笑顔いっぱいにかきまわる、おっきな声で言葉を交わし合う（今はちょっと小さな声。）、瞳がキラキラ輝くめんごい子どもの姿は尊い…。めあてに向かって一生懸命努力する、困難に仲間と助け合って挑み乗り越え、切磋琢磨する姿は本当に尊い…。それが、本校のめざす姿「元気！本気！琢磨校」です。すべての教育活動を通して、たくましく、しなやかな“元気”と“本気”を培っていきます。

◆子ども像「あいうえお名人」

元気！本気！を子どもの姿にしたのが「あいうえお名人」。気持ちのよいあいさつは自分もみんなも元気にします。「立腰（りつよう）」の姿勢は体も心もまっすぐにします。心がこもった歌声は心地よさを醸し出し、一体感を生みます。しっかりした鉛筆の持ち方は、物事へのまっすぐな心構えをつくり、その人の心を表す文字を描きます。そして、思いやる心は、人の役に立つ業になり、自尊心を高めま

す。心と体、知を高めるのが「あいうえお名人」です。

◆大人の姿「四かけ人」

昨今“愛着”という言葉をよく耳にします。大切な人との心の絆を意味します。愛着を築いた子どもは、安定し、前向きに生活できます。その姿を導く大人が「四かけ人」です。手をかけ、声をかけ、目をかけ、心かける。子どもができない時は、手をかけ、いっしょにできる体験と安心感、自信を積み上げる。声かけでそれができるようになれば大きな成長に。手が離れてきても、しっかり見守り、子どもの成長を見届ける。それらすべてはあったかい心がこもった大人の業になる。ゲームやインターネット等に人の心を支配されたくはありませんね。コロナ禍であるからこそ、人と人とのつながり、特に、家庭内における親子の絆を大事にしたいと考えます。見つめ合い、ふれ合い、心を通わせる日常を創ってまいります。7日の入学式では、27名の1年生が元気な姿を見せてくれました。1年生を迎える会は6年生のリーダーシップが見事。校是“琢磨”で新たな伝統を創ります。よろしく願いいたします。

